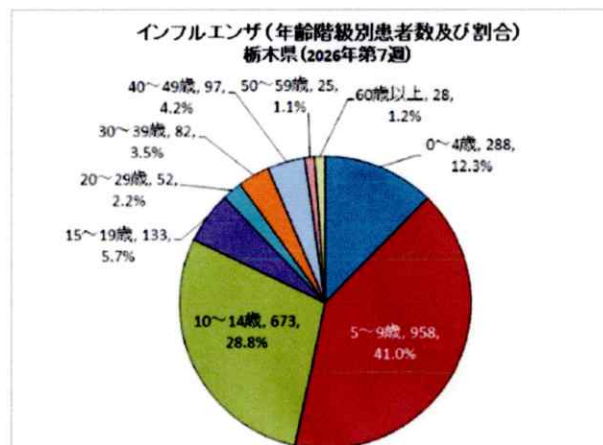
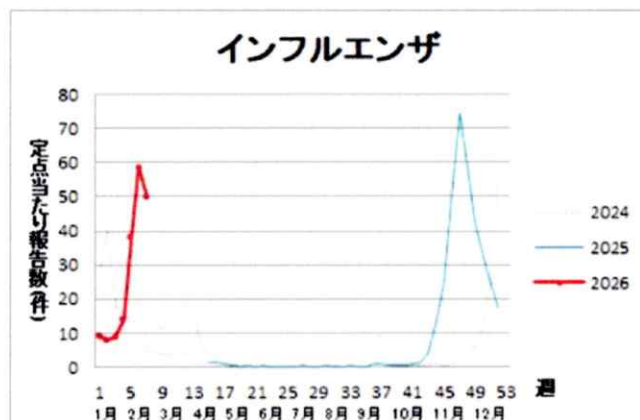


県内の感染症流行状況（2026年2月9日～2月15日）

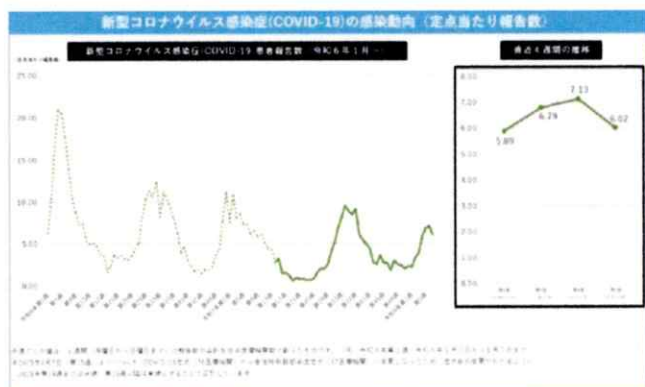
インフルエンザの流行状況



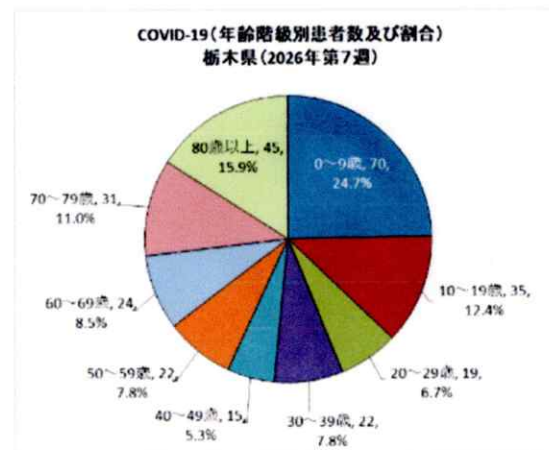
定点当たり報告数が49.70と、前週の値（58.40）から減少しましたが、県内全域で流行が続いています。年齢階級別では、19歳以下の報告が全体の8割以上を占めており、特に5～14歳の報告が多い状況です。[ARI病原体サーベイランスの結果](#)によると、2026年第3週以降、インフルエンザウイルスB型の検出割合が増加しています。一度インフルエンザにかかったとしても、型が異なる場合、再びインフルエンザにかかる可能性がありますのでご注意ください。

空気が乾燥している日が続いています。空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下しますので、適切な湿度（50～60%）を保つことが効果的です。その他、手洗いや咳エチケット、こまめな換気など基本的な感染対策を心がけましょう。

新型コロナウイルス感染症の流行状況



(PDF: 301KB)



県全体におけるCOVID-19の定点当たり報告数は6.02と、前週の値（7.13）から減少していますが、宇都宮市における定点当たり報告数は前週から2倍近くに増加しています。また、宇都宮市におけるCOVID-19（入院）の定点当たり報告数も大幅に増加しているためご注意ください。手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策を心がけましょう。